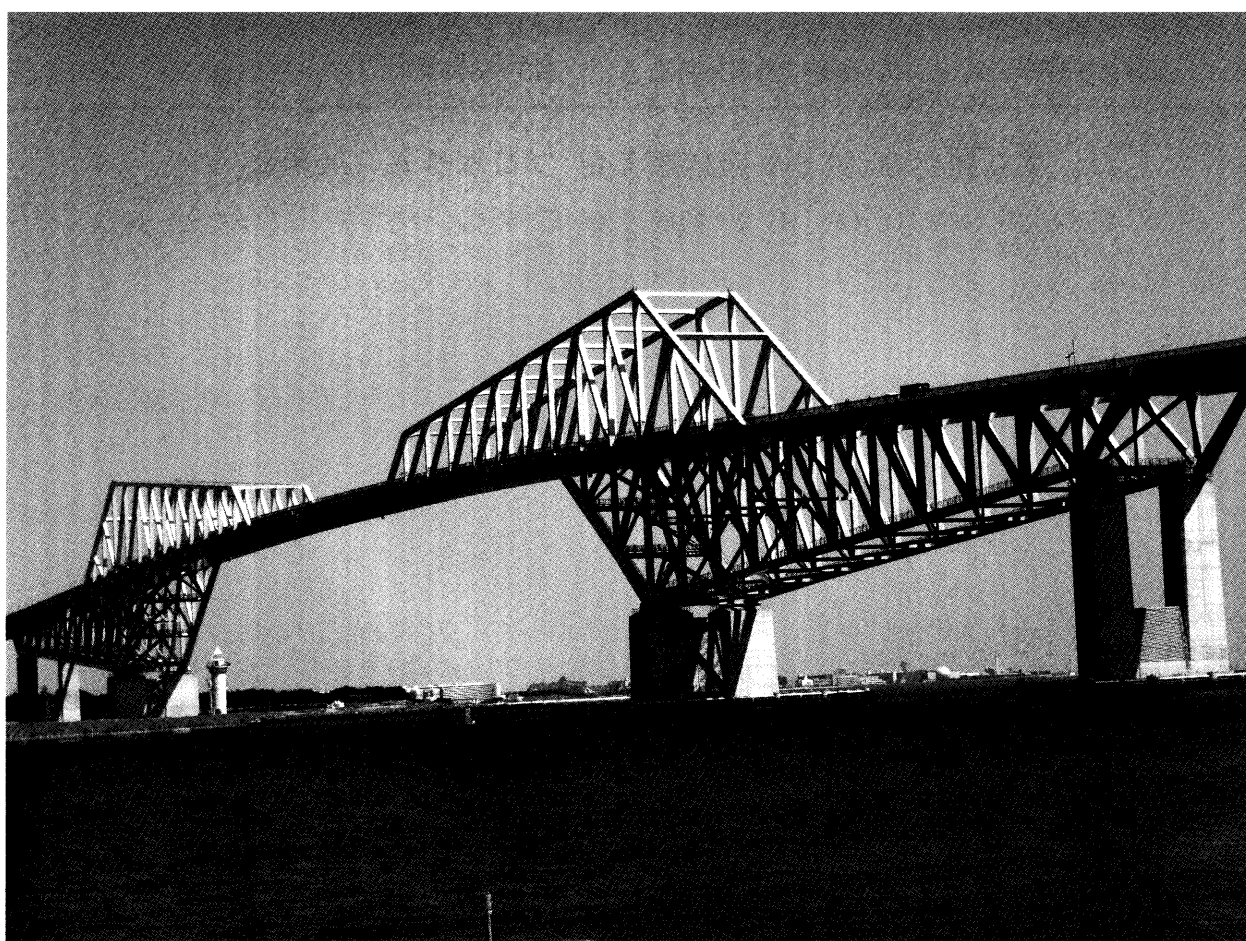


臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報
平成24年(2012)大会号



東京ゲートブリッジ 東京港の入口に2頭の恐竜が向き合うようにして架かる巨大な橋が2月12日に開通した。東京湾埋め立て地と江東区若洲を結び、全長約2.6km、海面からの高さは最大87.7mに及ぶ。三角形の鋼材を組み合わせで安定した構造の「トラス橋」という形式を採用。

ありがとうございました

平成23年度年の会費を納入された方々（敬称略）

青木 敏和	亀山 知明	澤出 趙允	羽下 力	芦川 靖子	高浜 つる子
畔田 昭義	川村 莞爾	柴野 暢夫	羽田 清之輔	安達 繁子	田川 百合子
阿部 勇	神田 栄俊	下野 文幹	濱田 守	阿部 モヨ子	塚野 ミイ子
安部 實	杵渕 政海	重黒木 賢二	原 高志	新井 久代	出口 テル
新井 三郎	熊倉 繁	新保 優	平山 誠一	荒井 るり子	寺山 征子
新井 康夫	熊倉 富次	杉本 芳男	堀 直昭	安藤 七七子	徳永 道子
安中 信夫	熊倉 道雄	杉山 喬	増田 訓英	安中 克子	中川 シズ子
安中 幸男	雲村 俊徳	鈴木 健司	松尾 貢	一氏 愛子	中島 和子
五十嵐 一郎	黒谷 幹丈	鈴木 忠雄	松尾 真一郎	伊藤 起子	中村 エツ
五十嵐 勝栄	郡司 正大	鈴木 輝雄	間藤 謙一	上杉 礼子	中村 俊枝
五十嵐 文郷	剣持 常泰	鈴木 多喜男	丸山 貞次	大島 エミ	中村 良子
石井 清和	小池 生夫	関塚 豪	水戸 勉	小笠原 よし子	林 信子
石川 滋	小出 博三	関谷 雄二	三室 茂和	岡部 ユキ	治田 レイ子
石黒 勝夫	小日山 芳栄	瀬倉 武志	宮川 裕皓	小沢 幸子	深見 洋子
石黒 久七	小山 光男	高岡 光夫	宮腰 和男	片柳 ムツ	藤本 夏美
石黒 四郎	近藤 尚志	高岡 雄三	宮崎 信次	木村 孝子	藤原 収子
猪口 生吾	近藤 英洋	高地 彰	宮沢 正由	久我 マキ	星野 孝子
今井 敬弥	近藤 洋輝	高地 勝	武藤 三郎	熊倉 マサ子	松澤 綾子
今井 孝宏	斉藤 公明	高山 幹雄	武藤 達家	小島 典子	松田 睦子
今井 英雄	斎藤 正義	滝沢 義則	村川 恭平	近藤 昌子	松本 知子
漆原 茂	佐伯 益一	田辺 昭雄	村川 忠司	斎藤 英子	真水 道子
榎並 秀栄	酒井 俊昭	塚田 勝	目黒 義二	佐々木 恵美	三国 弘子
大江 勝司	坂上 卓夫	辻川 登	八木 又一郎	佐藤 綾子	向山 律子
大橋 貞夫	坂上 三夫	坪谷 次郎	築取 正通	佐藤 治	森川 弘子
大和田 勲	篠川 恒夫	弦巻 功	山崎 輝雄	佐藤 洋子	森田 勝美
小黒 正恒	佐々木 秀三	中村 雅臣	山崎 豊吉	佐藤 八重	山西 愈佐子
笠原 静夫	佐々木 秀和	西山 莊平	山田俊治 (14回)	佐藤 玲子	横溝 美枝子
梶屋 庄佑	佐藤 栄治	二宮 文三	山田俊治 (22回)	白石 キヨ	渡辺 厚子
加藤 喜七	佐藤 克	二宮 光洋	吉井 清	鈴木 節子	
加藤 延雄	佐藤 趙	根本 俊夫	吉井 久夫	鈴木 則子	
金子 鶴男	佐藤 雅晴	羽賀 道信	吉田 晴男	鈴木 雅子	
金子 健二	佐藤 良平	長谷川 五郎	渡辺 八郎	高尾 桂子	
川合 敏男	澤井 昭	服部 修治	渡辺 嘉樹	高岡 五百子	

平成23年度会費納入者数 合計＝193名

平成23年度に寄付された方々（敬称略）

○男子の部（4名） 金額＝10,000円

3,000円 佐伯 益一

2,000円 武藤 三郎 山崎 輝雄 佐々木 秀三

1,000円 大岩 信也

○女子の部（1名） 金額＝ 3,000円

3,000円 片柳 ムツ

○30,000円 同窓会本部より活動助成費

寄付合計金額＝43,000円

平成23年度会計収支決算書

(平成23年4月1日より平成24年3月31日)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位:円)			支出の部 (単位:円)		
特別会計			特別会計		
第54 回大会収入 (No50既報)		796,000	第54 回大会支出 (No50既報)		992,155
一般会計			一般会計		
1	23年度 会費	578,500	1	54回大会 補填	196,155
	男子 132名 (1名2,500)	395,500			
	女子 61名	180,000	2	会議費	91,160
	(1名前年度納入済み)			(幹事会・各委員会)	
	計 193名		3	会報発行関連費	336,870
	1名次年度分納入	3,000		No51, 52号印刷代	263,550
				(会誌用封筒代金を含む)	
				発送費(メール便・郵送)	66,340
				取材費	6,980
2	平成23年度 寄付金	13,000			
	男子 5名	10,000			
	女子 1名	3,000			
3	同窓会本部 (活動費助成)	30,000	4	通信費	68,530
				切手・はがき等	22,400
				資料印刷・コピー	4,490
				資料の宅配・郵便	41,640
	* 寄付金者名は4ページに掲載してあります		5	年会費振込・他手数料	12,400
4	100周年記念行事参加費残金	52,671	6	対応費 (交際費)	214,993
	(参加者の厚意による)			県人会賛助. 理事 会費	20,000
				本部総会対応費	90,000
				母校百周年記念 寄付	100,000
				千代国一氏へ弔電、他	4,993
5	利子	92	7	諸雑費 消耗品	17,224
				インク・用紙・写真等	
23年度収入合計		674,263	23年度支出合計		937,332
平成22年度から繰越		606,268	平成24年度へ繰越		343,199
	郵便貯金	597,768		郵便貯金	289,631
	切 手	8,500		手持ち現金	53,568
合 計		1,280,531	合 計		1,280,531

上記の通りご報告致します。

平成24年5月6日

東京同窓会長 鈴木 多喜男 ㊞

財務委員長 塚田 勝 ㊞

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。 平成24年5月6日 会計監事 高岡 五百子 ㊞

頑 張 っ て ま〜す !

松高新卒社員を職場に訪ねて

広報委員 石 黒 勝 夫 (高14)

一昨年(2010年(平成22年))の5月27日、東京新潟県人会館(台東区上野一丁目)で、村松高等学校卒業生OB13人(東京同窓会の鈴木多喜男会長ほか)が、「就活バス」で進路指導担当教諭や保護者に引率されて上京した母校の三年生15人と懇談しました。首都圏で就職を視野に入れた生徒に、心配事や疑問などを、首都圏在住・在勤の先輩の立場からアドバイスすることが目的でした。

懇談の後、「就活バス」一行は、先輩が経営する事業所などを見学してふるさとへ帰って行きました。

あれから1年と10カ月。

「就活バス」で上京した生徒の中で、関東圏の職場に就職した松高新卒社員(2か所、3人)を、職場に訪ねました。

○ 渡部 美由さん と 齋藤 法貴君

渡部美由さん(五泉市横町出身)と齋藤法貴君(五泉市小山田出身)の2人が働いている職場は、神奈川県横浜市内にある「特別養護老人ホーム 陽光苑」という介護施設(施設の概要は「別記1」参照)です。2人とも2011年(平成23年)3月に村松高校を卒業した62回生で、同年4月1日付けで採用されました。

立春が過ぎた2月13日(月)、休日でお休みの渡部美由さんと、夜勤明けの齋藤法貴君に、わざわざ職場まで来ていただいております。



笑顔もステキな渡部さん

▶ 今の職場に決めたポイントは何ですか?

『もともと県外志望でした。進路指導の先生のご指導と、人の役に立つ仕事を探していたところ、「就活バス」で上京した際に施設を見学して、重労働で介護疲れすると思っていましたが、自分が少しでも働いて世間が良くなればよいなあと決めました』(渡部さん)。

『渡部さんとはほぼ同じ理由ですが、TVなどで介護現場には人が足りないということを見聞きしていました。体

力的にも精神的にもつらい面があり大変そうですが、頑張ってみようと思決心しました』(齋藤君)。

(2人とも動機がしっかりしています。えらい!)



コピーはこれでOK!

2人の仕事は、いずれも介護サービスの提供です。渡部さんは20人の方を、齋藤君は10人(ショートスティ)の方を、それぞれ介護のお世話をされています。

▶ 働いてみていかがですか?

『体力が必要であることや、つらいと思うこともありますが、やりがいを感じます。仕事を教えていただいた先輩のためにも、早く一人前になり迷惑を掛けたくないよう、無我夢中で一生懸命やる毎日です』(渡部さん)。

『同じですネ』(齋藤君)。

(2人の返事に、うなずくばかりです)

▶ 勤務のローテーションはどうなんですか?

『シフト制で、「早」(7:00~16:00)、「日」(9:00~18:00)、「遅」(11:00~20:00)、「夜」(16:30~翌9:30)の4つの勤務を繰り返し、休日は、4週間で1週間平均して2日となるように指定されます。』(齋藤君)。

▶ 仕事で気を付けていることは何ですか?

『言葉づかいや耳の遠い人には腰を低くして対応するようにしています』(渡部さん)。

『常にメモ帳を持って、筆談もします』(2人とも)。



相手の話を聞きながらメモする齋藤君

▶ ところで、ふるさとを出てきた当初、ホームシックにはなりませんでしたか？

『ほとんどありませんでした』と言う齋藤君に対して、渡部さんは『引っ越してきたその日と翌日は、一日中、ふるさとを思い出して泣きました』と明かしてくれました。しかし、ホームシックはその2日間だけだったということです。やはり、新潟の女性は芯が強いのだな～と感心しました。



相手の目をしっかり見て話を聞く渡部さん
やはりコミュニケーションは大切です！

▶ 休日はどう過ごされていますか？

『休みが1日ですと、寮でほとんど寝ています』(と言う齋藤君に、間発を入れず)『疲れますからそうですネ。』と渡部さん。しかし、『休みが2日続きますと、2日目には外出します』(渡部さん)とも。

筆者も就職して仕事を覚えるまでの間は、必死でしたから同じような状況でした。2人の発言には全く同感することばかりです。

▶ 2人とも寮生活ですか？

『女子寮に入っています。当ホームの隣接地にある二階建て一軒家が女子寮ですが、その寮で、2人で一階と二階を分けて生活をしています。炊事も別々にしていますが、それはお互いの勤務が一緒にならないからです』(渡部さん)。

『男子寮は、瀬谷駅(所在地は横浜市瀬谷区内)近くのアパートで、一人部屋です』(齋藤君)と。

それぞれ充足された寮生活をされているようでした。

▶ ふるさと五泉には帰省されましたか？

『昨年9月と今年の1月の2回帰りました。ふるさととは一番いいです』(齋藤君)。

『昨年9月の1回です』(渡部さん)と。

やはり、お小遣いの問題と神奈川からふるさととは遠いのですネ。もう少し辛抱して頑張りましょう。

▶ ふるさとを離れて、今、ふるさとをどう思いますか？
(と重ねてお聞きしましたら)

『ふるさととはご飯もあるし、風呂も沸いているし(用意されているということでしょうか)、いいですネ』(齋藤君)。(やはり男の子ですネ)

『都会には憧れますが、こちらではふるさとの風景、例

えば、田んぼや消雪パイプがありません。ふるさとが一番いいです』と(渡部さん)。

ふるさと新潟を連想するものとして消雪パイプとは、都会暮らしが長い筆者には、新しい発見をしたような気分になりました。

▶ ふるさとのご両親や友人との連絡はどうされていますか？

(と、手紙派の筆者は期待したのですが、やはり)

『メールです。すぐに返事がきますから』『手紙は全く書きません。もらうと嬉しいですが』との返事(二人とも)。考えてみれば、尤もなことですネ。携帯電話の無かった筆者の青春時代とは様変わりですが……ちょっと淋しく思いました。



鈴木理事長の左側に渡部さんと右側に齋藤君が神妙に……
(陽光苑の応接室にて)

取材を終えて部屋を退出する時、職場の篠原美代子事務主任さんに行き交いました。すると、取材のことをご存知で、筆者に近づいて来て、『二人は、ずいぶんいい言葉づかい、態度など、年配者から見てもしっかりしています』と、2人を高く評価しておられました。筆者は、自分の身内を言われたように嬉しくなり、思わず「有難うございます。これからもよろしくお願いします」と頭を下げました。

鈴木輝雄理事長(母校村松高校の先輩(高8))からも、2人について『当初は大丈夫かと思ったが、今ではビシッとして社会人らしく成長している』、『新潟県人らしく、とても真面目で一生懸命やっている』、『周りの人からの評判も良い。当ホームに来てもらって良かった』と、とても喜んでおられた。

さらに鈴木理事長は『来る4月には、村松高校から2人、五泉高校から1人の計3人を、別の会社に新規採用する予定です』と。

母校の2人の活躍を評価しての決断と思います。

これからも頑張れ！と2人にエールを送り、春の到来が近いことを知らせるような暖かい日差しの中、すがすがしい気持ちで陽光苑を後にしました。

◆ 今回の取材では、二俣川駅でお出迎えいただいた鈴木理事長さんをはじめ、二俣川駅と陽光苑間を車で送迎していただいた大山涼子事務員さん、それに、施設内を丁寧なご説明とご案内をいただいた田中慎吾施設長さんと西村テル子介護主任さんほか、施設の大勢の職員のみなさんに大変お世話様になりました。紙上をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。
有難うございました。

別記1 特別養護老人ホーム 陽光苑

(社会福祉法人 陽光会)

住所 〒241-0817

横浜市旭区今宿 1-66-26

TEL 045-959-1081

FAX 045-959-1083



理事長 鈴木輝雄 氏

施設の概要

◎事業内容

- ・特別養護老人ホーム
100床(10ユニット)
- ・短期入所生活介護
10床(1ユニット)

◎建物の規模 ・建築面積 1700.15㎡

- ・延床面積 4,513.0㎡
- ・地下1階 地上3階建

◎社員 ・正社員 60余人

- ・パート 10人



陽 光 苑

○ 熊倉 凌 君

2月17日(金)11時過ぎ、金子鶴男副会長(高5)とJR大宮駅で合流し、そこから2時間ほど要する東武桐生線「赤城駅」に向かいました。

眼前に広がる上州平野を眺めながら、持ち込んだ弁当とお茶を車中で食し、車窓からは、終点が近づくにつれ真っ白い雪に覆われた赤城山が見え隠れ、ちょっとした小旅行気分でした。

赤城駅前で、今日、取材する松高新卒社員が働いている「あかぎ園芸(株)」(会社の概要は「別記2」参照)の安中信夫社長さん(母校村松高校の先輩(高20))のお出迎えをいただき、社長さんが運転する車で取材先の会社に向かいました。

会社の応接室で、作業服姿の熊倉 凌 君(五泉市太田出身)に、金子副会長と一緒に話を伺いました。

熊倉君は、数日前に取材した渡部さんと齋藤君とは村松高校の同級生(2011年(平成23年)3月卒、62回生)で、2011年(平成23年)4月1日付けで採用されました。

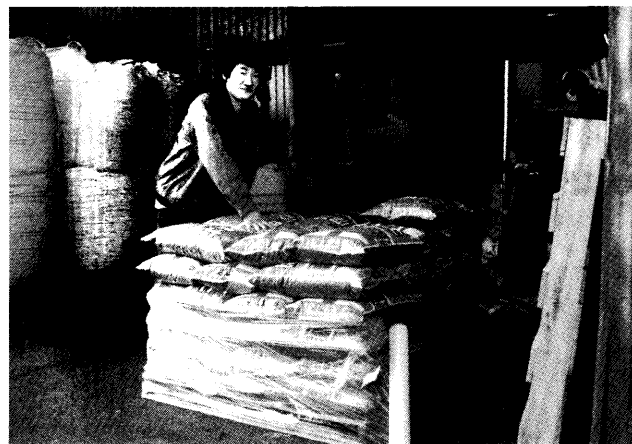
▶「あかぎ園芸(株)」に入社を決めたのは、どんなところに魅力があったのですか?

『このような仕事をやってみたいと思っていました。採用される前の3月、社長さんの面接を受け、職場を見て回り、それで「頑張ろう」と決めました。荷物の積み下ろしなど重労働だと思いましたが、元々身体を動かすことが好きでしたので。』と。

五泉の実家は農家ということですので、お手伝いをよくされたのでしょうか。見上げた姿勢です。

▶勤務して間もなく1年ほど経ちますが、お仕事はきつくないですか?

『最初の頃は思った以上に大変でした。荷物の積み下ろしには慣れていませんし、力仕事でしたから』『しかし、今はだいぶ慣れてきました』『ずーっと続けていきたいです』とは頼もしい一言。



出荷する荷物を前にして熊倉君

▶ どちらに住んでいるのですか？

『会社から近くにあるアパートを借りて、そこで1人で自炊しています』。社長さんのお話しでは、家賃の半額は、会社が3年間負担されるとのことです。

▶ 勤務時間などは一定しているのですか？

『基本は8:30~17:30ですが、季節によってはお客様からの注文の量も異なってきますので、夜の8時、9時まで出荷作業に追われることもあります』。

▶ 職場にフォークリフトが沢山ありますネ。

『荷物の移動や出荷に使います。社員1人に1台専用にあてがわれています』、『職場に入ってから、フォークリフトの資格を取得しました』とは頼もしい。



自分の名前が入ったフォークリフトを巧みに操る熊倉君

あかぎ園芸(株) 本社工場にて

▶ 職場の皆さんは皆な先輩ですが・・・

『先輩の皆さんは皆な、気軽に声をかけてくれますので、人生の先輩として尊敬し、仕事にもやりがいを感じています』。

▶ 休日はどのように過ごしているのですか？

『洗濯をしたり、部屋の掃除をしたりしますが、ほとんどは身体を休めることにしています』。

▶ これまで五泉には帰省されましたか？

『昨年8月と、今年の1月の2回帰りました』、『帰ると同級生にも連絡したりしますが、こちらが却って元気をもらいます。嬉しかったです』。

▶ これまでにホームシックにはなりませんでしたか？

『全然感じませんでした。むしろ両親から離れて、独り立ちできたことは良かったと思っています』、『両親からはメールもきますが、すぐに返事をしたり、忘れて放っておくこともあります』。

「手紙も書かないのですか？」ともお聞きしましたところ、『書きません』、『もっぱらメールです』とのこと。やっぱり手紙はもう古いのでしょうか。

▶ 東京・関東圏には、村松高校を卒業された先輩の皆さんが大勢おられます。その中で、東京同窓会に入っておられる方が数百人とおられます。同窓会をどう思いますか？

『そんなに居られるとは思っていませんでした』、『頼もしいですネ、私も頑張ります』。将来、会員になっていただける日が来ることを願っています。



左から金子副会長、熊倉君、安中社長、筆者

あかぎ園芸(株)本社社屋前にて 2月17日撮影

◆ 安中社長が、自らの自叙伝的なことを書き綴った記事が、平成23年6月発行の同窓会誌No. 51号の13ページに掲載されています。

今日の会社に至るまで、倒産などの憂き目にも遭うなど、多々ご苦労されました。そのことを物語るように、応接室には、精神的支柱とされている「松下幸之助 不況克服の心得十カ条」(巻物風)が掲げられていました。

その内容をご紹介しますと

第1条 「不況またよ」と考える

第2条 原点に返って、志を堅持する

第3条 再点検して、自らの力を正しくつかむ

第4条 不退転の覚悟で取り組む

第5条 旧来の慣習、慣行、常識を打ち破る

第6条 時には一服して待つ

第7条 人材育成に力を注ぐ

第8条 「責任は我にあり」の自覚を

第9条 打てば響く組織づくりを進める

第10条 日頃からなすべきをなしておく

また、毎週、社長訓示を事務室に掲出して社員に呼び掛けているほか、給料袋に社長のメッセージを同封しているとのことでした。

その安中社長は、熊倉君を『当社の仕事は肥料の運搬など比較的地味ではあるけど、彼はとても頑張ってくれているし、仕事振りも真面目に頑張っているの、私としては将来が楽しみです』また、『できれば3~5年位、今の仕事を精いっぱいやってくれて、その後、全国に営業で飛び回れるようになって欲しい』と、期待しておられました。

頑張れ! 熊倉君。

地域デビュー・その後

高岡 光夫 (高15回)

会社勤めを退いたのが二年前、毎日を日曜日で過ごすのも親に申し訳ない。では、どうする？ 先ずは、殆ど知らない地元の動きに関心を持つことにした。

月に二回、新聞に折り込まれる市の広報誌に載った中の「男性講座」という名前に誘われ、講座を受けた中でシルバーリハビリ体操を知った。

この体操は、茨城県立健康プラザが介護予防を目的に高齢者層の体力低下を防ぎ、あわよくば体力の向上を図ろうと始めたものである。高齢者向けであるから「一人でも、どこでも」出来るのが謳い文句である。

やってみると、動きが理に叶い簡単である。が、一人でやると永續きしない。私は暇つぶしに良いと思い、講習を受けて資格を取得した。この資格は、八日間の講習を受けるだけでよく受講料はない。但し、自分が人様に教えるときにはお金をもらってはいけない、というのがミソである。又、体操の中に失禁予防の体操や誤嚥予防の体操があるのも妙に納得がいった。

さて、私の住んでいる取手市は、六十五歳以上の高齢者が二十五パーセントを超えている。五年後には、三十六パーセントになる見込み、というのが市の統計である。数字だけ見れば、悲観的になりそうだが、三十六パーセントの人達が元気なら悲観することも無さそうである。

ともあれ、私は取手市の体操指導士会に加入し、会員との交流や公民館などでの体操指導を始めて、地域デビューをすることになった。

高齢者を相手に体操をしていると「体操に来るのが楽しい」と、話しかけて来る人もいる。こういう人は永續きしている。反対に、いくら話しかけても反応の鈍い人は欠席しがちである。体操指導をしていて感じることは「シルバー世代は体操の他に話し相手を欲しがっているのではないか」と、云うことである。

私は体操指導に行った時、挨拶の他に一言つけ加えている。反応が良いのは「今日の顔色いいですね」である。来週もその次も「今日の顔色いいですね」と挨拶を続けて行こうと思う。

写真はリハビリ体操の様子



別記2 あかぎ園芸株式会社

◎ 本社所在地

群馬県伊勢崎市香林町
2丁目 939 番地の1
[TEL] 0270-70-5500
[FAX] 0270-70-5505

◎ 工場所在地

①本社敷地内・②みどり市・③前橋市

◎ 社 員

正社員 7人
パート社員 23人
[TEL] 0270-70-5500
[FAX] 0270-70-5505



あかぎ園芸株式会社
代表取締役 安中 信夫 社長

沿革

- 昭和 59 年 11 月 (有)あかぎ園芸資材設立
- " 63 年 07 月 藪塚(現太田市)営業所開設
- " 63 年 11 月 輸送部門を分離
あかぎ産業(有)設立
- 平成 08 年 06 月 あかぎ園芸(株)の
組織・社名変更
- " 13 年 01 月 赤堀(現伊勢崎市)に営業所
開設 本社も同時に移転
- " 16 年 06 月 あかぎ産業(有)を吸収合併
- " 18 年 03 月 倉庫・資材置き場 増設
現在に至る

吾妻山公園

新保 優 (高10回)

江ノ島から小田原にかけての相模湾に沿った一体は、緑地が多く残っており、史跡も多いので、それを利用して様々な緑地公園が作られている。そこでは海、森、山などの景観が楽しめ、首都圏に近いので、ピクニックやハイキングの場所として重宝されている。

吾妻山公園もその中の一つである。東海道線二宮駅の



公園入り口の階段

駅から商店街を抜けると、5分ほどで公園の入り口に到着。そこから急なコンクリートの階段を20分位登らなければならない。かなりきつく息が切れた。若いカップルや親子連れ、中高年の団体など、大勢に行き会ったが、その多くがこの階段に手こずっていた。

階段の先から雑木林を通る山道になる。頂上までは結構長くて、そのほとんどは上り坂である。しかし道はよく整備されていた。周りには沢山の水仙が花を付け、良い香りを放っていた。



水仙の咲く登山道

途中で浅間神社の社と鳥居があった。登り口が急な階段なのは、この社の参道を使ったためらしい。

しばらく登ると山頂の下の平地に出る。花壇や植木が整備されていて、手洗い所や休憩所がある。桜の木もた

くさん植えられていた。山頂からここまで長いローラー滑り台が作られていた。小学生や大人に付き添われた幼児達がプラスチックの敷板を借りて滑っていた。

公園の一部は工事中で立ち入り禁止であった。遊具の整備のためとあったが、平凡な遊園地になってしまうのではないかと気になった。



頂上の広場と菜の花

山頂は広場になっていて、展望台、休憩所、万葉の歌碑などが立っている。あたりは菜の花が満開で、いろいろな人たちが寛いで休んでいた。子供連れ、ペット連れも多かった。

山頂から見ると、菜の花の向こうに伊豆半島と箱根の山並みが連なり、その先には雪を抱いた富士山が見える。さらに眼下には相模の海が広がっていて、確かにすばらしい眺めである。ここでは写真の撮影会が頻繁に行われているようだ。



菜の花と富士山

帰りも同じ道を通ってきたが、もっと緩やかな登山道があることを、後で案内図から知った。ただその上り口から駅までは、1km以上も歩かなければならない。

車で来園する人たちも多く、かなり離れて作られた臨時の駐車所も一杯だった。その通り道に当たる商店街ではお土産を求める人達で混雑していた。しかし開いている店は少なく、開いていても品切れが多かった。ただ、店の人は観光地ずれしてなくて、親切だった。

駅の近くに農協の直売店があって、商品がまだ残っていたので、形はよくないが安くて味の濃い、地元産のみかんを買って帰った。

社交ダンスに魅せられて

猪 口 成 吾 (高14回)

きっかけ

平成4年(1992年)～5年('93年)の頃、私は会社内にある2つの野球部の監督をしていました。ヤングチームとロートルチームです。そのうちのヤングチームの中で、ダンスの同好会を結成していて地区競技会に参加していました。私にも参加の誘いがありましたが、野球との2足わらじは履けないと断っていました。しかし、本音は全く女性との接触が苦手だったのです。

ところが50歳になった時、野球の監督をやめたので、同好会への誘いを断る理由もなくなりました。そこで、ダンスを教えていただく前提条件を付けたのです。それは、家内と一緒にならば…。すると、なんとその家内がOKを出したものですから、もう逃れられないと観念し、家内と一緒に組むことになりました。後で分かりましたが、家内はダンスを踊ることが出来ていたのです。

冷や汗と気恥ずかしさも、やがて・・・

同好会に参加し、まず家内と手を握りました。冷や汗をかきながら、ステップを踏む練習へと進みましたが、女性と手を握り、身体を密着してステップを踏むことは、たとえ家内とはいえ最初は非常に気恥ずかしさで頭の中は真っ白け。気は焦る、体は動かない。このような状態が3カ月ほど続き、もうやめようかと考えていた時、パーティに誘われ、のこのこと出かけたのです。

案の定、最初は「壁の花」ならぬ「壁の染」の気持ちでした。すると先生が踊りに誘ってくれたのです。恐る恐る踊ってみますと、身体がリズムに乗って楽しく踊ることができたのです。さすが先生のうまいリードに乗せられていたのです。

これを機会に、同好会の仲間とともに、本気になってダンス専門の先生に教わることにしたのです。

余談ですが、教えていただいている先生は、ダンス専門と言ってもプロの先生ではありません。アマチュアダンス競技A級のライセンスをお持ちの方で、授業料(月謝)も3,000円程度です。

その先生は、イギリスまで踊りの大会に出掛けるといふほどの熱心さをお持ちで、先生の踊りはとても美しく、しなやかで、力強く、スピーディーな足さばきに、一遍に魅せられました。

以来、20年近くも教えてもらっています。

ダンスはしたいが、どこに行ったら?と、お思いの方へ

まずは、ダンスの競技大会などを見に行ってください。眼前でダンスを見ていただければ、必ずやその素晴らしさを実感するはず。また、ダンスを習う場所も、都内ならば区民会館、地方ならば公民館等に、多くのダンスサークルが活動しています。

特に、男性陣は少数人員ですから大歓迎です。一方、

女性陣は大勢おられますので、十分に踊ることができると思います。

ダンスの魅力と効用

ダンスの奥は深く、極めるのはまだまだ先ですが、20年踊ってきて、その魅力と効用について少し話したいと思います。

魅力の第一は、その身体の美しさ、ペアーが繰り出すポーズです。

第二は音楽の美です。音楽のリズムに合わせて醸し出すステップの美です。まさに躍動する芸術そのものです。

魅力の第三は、男性が女性を守り、女性も充分応えるという協力姿勢です。第四は健康になれる点です。それはボスチャー(体の各部分(頭、ボディ、ヒップ等)の中心を垂直方向に配列することにより構成される姿勢)にあります。第五は気が若々しくなる点です。異性と組んで踊ることで、気持ちが高揚するからです。第六に会話が弾むことです。そして、第七に、仲間が大勢出来るという点です。これは他の趣味においても同様ですが、特に、「仲間の存在」は最も重要な点です。

どのような趣味を持つにしても、仲間が存在しなければ、会話がいないということでもありますし、非常に寂しいことではないかと思います。



チャチャチャ部門で優勝

平成23年5月5日



ダンス同好会の皆さんと志賀高原へ旅行

Shall we ダンス?

平成8年('96年)1月、「Shall we ダンス?」(役所広司など出演)という映画が放映されました。それは、会社人間とか、孤独な人々などが、ダンスというコミュニケーションを通して仲間を作り、人間らしい生活を取り戻していくというような内容でした。

どんな趣味でも結構です。好きな道に邁進して楽しく、健康的な生活を過ごされるよう願っています。その趣味の中に、ダンスへのトライがありましたら、なお光栄かと思ひます。一人のダンス愛好者より。

男性合唱団【風】

小黑 正恒（高16回）

2005年4月、定年退職に伴い札幌から荻窪に転居しました。退職で時間的に余裕が出来たので、新しい事を始めたいと思っていた所、たまたま杉並文化協会の宣伝紙に「新しい男声合唱団を始めます・団員募集」の案内が載っていました。初心者故、既成の合唱団に入るのは躊躇しましたが「新しい」に惹かれて軽い気持ちで参加しました。初日集まったのは6名の男性でした。

初めて歌った曲は「五月の歌」「遙かな友に」でした。ピアノ伴奏で歌うのは、高校の音楽の授業以来で戸惑う事が多かったです。合唱団の名前は「男性合唱団・風」と決まりました。最初は小人数で始まったのですが、団員は徐々に増え現在団員は、20名迄になりました。

練習は月3回、杉並公会堂のスタジオで行っています。毎月、会場は予約抽選なので苦労しています。練習時、先生から「他のパートの音も良く聞いて」「リズムに注意して」と指導を受けます。中高年ゆえ次回の練習時には忘れており、同じ様な指摘が繰り返され、中々うまくいきませんが、ハーモニーが揃った時は気持ちが良いです。団員はアットホームな雰囲気の中で楽しく練習をやっています。発表会は杉並区コーラス連盟主催の「サマーコンサート」や、年末には合唱団主催で「ミニコンサート&パーティー」に参加して、家族や友人、知人を招待して立食パーティーで交流をはかっています。時には老人慰問コンサートを行い、ホームの方から「ボリュームのある声量と美しいハーモニーに魅了された」等とお褒めの言葉を頂き励みになっています。

2011年は設立5周年で女性コーラス（ブーケ・ドウ・ト）とのジョイントコンサートを杉並公会堂小ホールで開催しました。混声の演奏曲は「シャレード」「鳥が」「落葉松」「瑠璃色の地球」の4曲を歌いました。新しい楽譜を覚え、演奏会での適度の緊張感、大きな声を出すことでの精神のリフレッシュ等々、脳の活性化になるのではと、今年も愉快に歌っていこうと思っています。



ジョイントコンサートの1コマ

東京での一家団樂

滝沢 義則（高22回）

母は、昭和56年12月以来ずっと川内地区の矢津川で、1人暮らしをしつつ“酒屋のおっかさま”として、酒の小売業と全国食生活改善推進協議会活動を生き甲斐に頑張っていました。そんな元気な母も昨年末から体調を崩して自慢の“食欲”も無くなり、とても1人にしておけない状況になってしまいました。『来いって言われたら東京でもどこでも行くよ』と、昔言っていた母も、なかなか“緊急東京移住”に同意してくれません。しかし、ついに元旦の午後に『行く』との決断をしてくれました。

さあ、出発目標は1月9日。しかし、車椅子がないと連れて行くことができません。幸いなことに従弟がすぐに対応。お隣さんが所有する3台の内1台を借りて来てくれました。9日降りしきる雪の新潟を後にしました。東京は快晴です。さあ人生初の東京生活のスタートです。1人で生活ができるようになるまで新潟へ戻ることはできません。朝はパンのバター塗りと後片付けをし、お昼まで知人や親戚への手紙を書き、シルバーカーを押してポストに出し、帰りに公園で休憩と日向ぼっこです。

私も午後1時頃になると携帯へ電話して、元気を確認していました。何と言っても東京は天気が良い。だから散歩が出来て、自然に足が鍛えられました。通院も往きはタクシー、帰りは歩いて帰って来たそうです。

休日には母、妹、私の3人で一緒にお昼を食べながら、体調のことやら田舎からの最新情報を肴に“麒麟”を飲みつつ一家団樂をやりました。祖母、父、母、自分、妹そして弟と、6人での一家団樂は、遠い昔ですがとても懐かしい思い出です。

三世代が、同じ屋根の下で衣食住をともにする中で、優しさや逞しさを持った多くの日本人が育って来たのだと思います。母も4月には85歳になりました。

来年も再来年も、東京での一家団樂が永続きするよう皆でがんばろうよ！ 母さん、誕生日おめでとう!!



慣れないパンの朝食風景

訃 報

伊藤 勇五氏 (旧中 33 回卒)

元副会長として、多大なご尽力を賜りました伊藤勇五氏が平成 23 年 12 月 13 日、心不全のため永眠されました。ここに、生前のご厚誼を心底より感謝申し上げますと共に、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

伊藤 勇五氏を悼む

渡辺 八郎 (高 3 回)

前副会長、伊藤勇五氏の逝去に際しまして心から哀悼の意を表します。元東京同窓会会長佐伯益一氏の補佐役として、長い間尽力されてまいりました。また、後任の鈴木会長の時も、顧問役としてご指導戴いておりました。

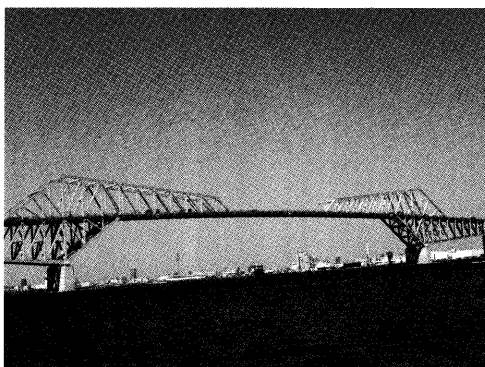
遠く戦時中は予科練習生として、皇国の一任を担っておりましたが、終戦、復員、復学と目まぐるしい世相の中で、在役当時の厳しさを引きずることもなく、復学後は優しく後輩に接してこられました。校内弁論大会では、朗々たる弁舌で在校生を感嘆せしめたものでした。

世の中が少しずつ落ち着いてきて「歌謡コンクール」なるものが盛んになってきた頃、美声を引っ提げて登場されました。当初から氏の右に出る者はなく、優勝を独り占めにしておりました。数多の芸能界から勧誘を受けた程でしたが、「芸能界はねえ〜」と、派手な事にはあまり興味が無かったようでした。

上京してからは不動産業に携わり、地道な生活を送っておられました。しかし、時には旧制中学校時代の母校の伝統や栄誉を語ると共に、我々を勉励、鼓舞して下さいました。耳目を集める歷程を持ちながらも謙虚で驕りも無く、我々後輩の話もよく聴き、面倒見の良い先輩でありました。

人の世の無常に心を痛め、茲に重ねてご冥福をお祈り致します。

合掌



表紙：別アングルから東京スカイツリーを望む

小出博三氏の油絵展にて

今年も3月4日(日)～10日(土)までの1週間、小出氏(高8回)による恒例の第14回油絵展が、昨年同様に有楽町の東京交通会館B1(シルバーサロンA)に於いて開催された。

昨年は、3月11日の東日本大震災の影響をまともに受け、最終日の展示が中止せざるを得なかったが、今回は平穩に展示会を終えることが出来、我々同窓生としても一安心すると共に、心よりお祝いを申し上げたい。

私も同窓の皆さんと連れ立って、7日(水)に拝観してきた。多くは風景画であるが、いつもより静物画を多く目にしたので訊ねてみると、「スケッチに散歩するのが次第にキツクなって来たので、アトリエで描く静物画が増えてきたんですよ。」とのこと。「ご冗談でしょ! まだまだお若いのに頑張って下さい!!」と、励ましの言葉を口にしては見たものの、近年、己の腰痛や脚のシビレを考えると、そろそろ自重しなければならない年になって来たのかな〜 とも思うのである。

それにしても、14年連続で油絵展を開催された事はまさに敬服すべきものであると確信した。大橋(高10)



画廊入り口の様子



7日に集結した同窓の面々

第17回親睦ゴルフ会開催

平成24年4月5日、入間カントリー倶楽部に於いて
 高東京同窓会の第17回ゴルフコンペが開催された。

ようやく春めいて、天候にも恵まれ絶好のゴルフ日和
 であったが、低温続きの所為か桜も蕾のままで残念…。

今回もまた亀山氏、吉井氏のお二人には何かとお世話
 になり、心から感謝と御礼を申し上げたい。



ゴルフ日和だ 頑張ろう！

第17回ゴルフコンペ成績

成績（敬称略）

優勝・石黒 勝夫、準優勝・今井 英雄

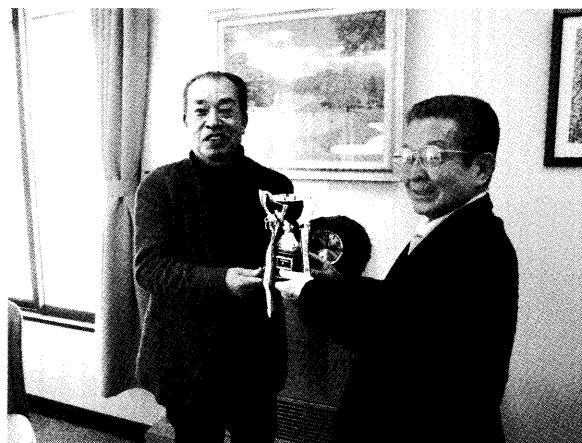
3位・鈴木 輝雄

参加者名（順不同・敬称略）

1組 鈴木 輝雄、片柳 ムツ、鈴木 理恵子

2組 亀山 知明、金子 鶴男、石黒 勝夫

3組 吉井 清、大橋 貞夫、今井 英雄



石黒さん初優勝おめでとう！！

第18回親睦ゴルフ会開催のお知らせ

平成24年10月11日（木）、入間カントリー倶楽部に於いて第18回親睦ゴルフ会を開催いたします。
 優勝杯を手にして、美酒を飲んでみようと思われる方は下記へご連絡下さい。

吉井 清（高8回）Tel & Fax 042-527-6482

亀山 知明（高3回）Tel 042-572-5096

編集後記

▼三月三十一日、第十回幹事会にて第五十五回大会の
 詳細、役割分担が最終的にまとまりました。今大会には、
 就活バスで上京し東京同窓会の先輩方との懇談を経て、
 めでたく就職に至った若き後輩三名を招待することにな
 りました。この機会を通して多くの先輩方と語り合いな
 がら、母校の歴史と伝統に触れ、学び舎を一にする同窓
 生の自分をもう一度見つめ直すことができれば、それは
 本人のみならず、我々の人生にとっても大変有益になる
 ことです。私自身、三月にそういう素晴らしい経験をし
 ました。昨年九月二十八日、百周年記念講演をされた小
 池生夫（高三回）先生と、二時間たっぷりお話しする機会を
 得たのです。『日本のため、英語のため』『奉仕と自己犠
 牲の精神』『自身の最善を尽くし、己を活かし、他人を活
 かし、世を活かす』と言う思いで歩まれた先生の人生に
 感激し、今後の人生に夢と希望を与えていただきました。
 人生って、きつと楽しいものです。『会員相互の親睦を図
 り、母校の発展に寄与することをもって目的とする』（会
 則三条）を忘れずに活動が続けていきます。

▼会員名簿の整理を行いました。結果、平成二十四年
 四月二日現在、総会員数『三百三十八名』の同窓会とな
 っています。今後、加除、修正は半年か一年に一回行っ
 予定です。

さあ、大会まで二ヶ月余り。皆さまにお会いできる日
 を、幹事一同心待ちにしています。

四月二十日 広報委員 滝沢義則

原稿送付先

TEL 158 0094

世田谷区玉川四一二十八

大橋 貞夫 宛

E-mail sadoo-0@gb4.so-net.ne.jp

平成24年6月 第53号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中27）の書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

東京同窓会事務局 〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

電話・FAX 番号 03-3488-2117（石黒四郎）



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	県立村松高等学校
浮田 辰平 作詞 曲は 旧軍歌より 1. 塵の巷を遠ざけて 雲たちまよふ白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流にも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰が心ぞや 5. 夫れ英雄も人傑も 人の子吾等が類なり あゝ松城の健男児 奮ひて起つべし諸共に あゝ松城の健男児 勇みて起つべし諸共に	相馬 御風 作詞 大和田愛羅 作曲 1. 愛宕の山のむら松の みどりの色の常盤なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雪にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. その名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂ふごと 気高き姿保たばや	相馬 御風 作詞 中山 晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなざれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生氣湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
第一応援歌	第二応援歌	第三応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高鳴る血潮 たたえつゝ春の日廻る 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て 花紅の香に匂ふ 誉れは高き松城の 健児が胸に血や躍る 2. 我等がえらぶ丈夫の 誉れは海の湧くがごと 望みは雲の行くがごと 月の桂をな譲りそ 栄ある名をぞとこしへに	1. 松城健児六百が 祖国の為に剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り 3. 今壮快の晴戦 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り